

衆議院議員茂木敏充氏との対談



CRT 栃木放送「開倫塾の時間」

放送時間：3：45～（約20分）

収録日：2008年8月31日

第 1 回

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。開倫塾の時間をお聞きいただきましてありがとうございます。今日はスペシャルゲストとして、素晴らしい方をお招きしております。

先般、国務大臣にご就任になりました茂木敏充先生です。先生よろしくお願ひいたします。

茂木敏充先生：おはようございます。よろしくお願ひいたします。

林：茂木敏充先生は、国務大臣として金融行政改革をご担当です。茂木先生、大臣としての日常生活はどのようなものなのでしょうか。

茂木：ちょうど一ヶ月前の 8 月初めに再入閣、大臣に指名を受けました。正式の就任は、8 月 2 日の土曜日、皇居で天皇陛下のもと、辞令が渡されました。その前日の金曜日の夕方、皆様にも御覧頂いた方が多いかと思うのですが、いわゆる「呼び込み」という形で、官邸の方に呼ばれて指名を受けます。呼ばれるといっても、国会のそばにいないとなかなかすぐに行けないものですから、午後になると官邸から内々に私の携帯に電話がかかってくるんですよ。「夕方以降、空けといて下さい。官邸の方にお呼びすることになります」と。そこで大臣の指名だろうな、とピンとくるわけです。テレビ等では、大臣と速報が早めに流れますが、実際は、官邸に行ってみるまではどの大臣になるか分からないのです。

私の場合も、今回は総理の方から、金融担当、行政改革、公務員制度改革の分野を担当してほしい、というお願ひがあったわけです。

林：実際に大臣にご就任になってからどんな生活をお過ごしなのでしょう。お忙しいとは思いますが、昨日、アメリカからお帰りになったということですね。

茂木：就任にあたって、総理から「茂木大臣は改革の大臣なので、しっかりやってほしい」というご指示をいただきました。行政改革にしても、この後のシリーズの中でじっくりお話したいと思いますが、行政の無駄、縦割行政の弊害を排除し、国民の皆様から見て、行政の無駄が多いのではないかな、公務員もしっかりしてほしいなと思える所を一つひとつ変えていきたいと思っています。しかし、忙しいですね。先月末もちょうどワシントンに 1 日、ニューヨークに 1 日と 2 泊 4 日でアメリカに出張してきました。ワシントンでは、日本で日銀の総裁にあたるバーナンキさんという F R B の議長や、コックスさんという証券取引委員会の委員長と会いました。アメリカも今はサブプライムローン問題と、いろいろ金融的に混迷を深めていますので、そういったことについても意見交換をしてきました。

林：素晴らしいですね。議論はちなみに英語でなさったのですか。

茂木：英語でもやりますし、通訳を入れたり、その時々で使い分けてやっています。

林：先生は英語がご堪能なので、特に素晴らしいと思います。

茂木：海外にいても忙しいのですが、国内でも毎週火曜日と金曜日には総理以下全閣僚が集まった閣議がありますし、それ以外にも様々な会議や、いろいろな所での講演があったりと忙しい毎日ですね。それからもう一つ、大臣と言いますと、テレビ番組でもあるように、S P ・警護官というのが付いております。朝起きたときから夜寝るまで、公務であっても

プライベートであっても、極端に言いますと、近くのコンビニにジュースを買いに行く時でも、S Pさんが付いています。不自由と言えば不自由かもしれませんがありがたいことです。

林：今日もこの収録をしていただいている間も足利警察署とS Pの方が護衛を下さっています。

茂木：危険はないと思いますが、念のため、ということでずっとつけてくれています。

林：先日も外人記者クラブでもご講演なさったそうですが、ご講演も多いのですか。

茂木：やはり、週何回か講演の依頼を頂きます。先日も外国特派員協会で、英語での講演をさせていただきました。なかなか好評でして、日本の新聞もですが、イギリスの「Financial Times」という、世界で一番権威のある新聞にも私の講演内容を紹介していただいたりしました。これから金融の分野でも、日本の東京市場を、ロンドンやニューヨークに匹敵するような世界的市場にしていく、こういう意味からも担当大臣として、世界に向けて発信をしていきたいなと思っております。

林：ぜひよろしくお願ひしたく思っております。ところで2つの大臣を兼務なさって大変だと思うのですが、何か御苦労はありますか。

茂木：今回は、初入閣ではなくて2回目の入閣ということで、決して気負いがあるわけでもなく、一つひとつの仕事をしっかりこなしていこうと思っております。金融というのは日々変化する、為替にしても株価にしても、また今、中小企業に対する金融など、色々な課題を抱えておりますが、スピーディな対応を要求されますので、そういうことをしっかりやっていくということです。もう一つ、行政改革で強いリーダーシップを持って、これらの問題に取り組んでいきたいと思っております。

4回シリーズで対談をさせていただくということですから、金融の問題や行政改革の問題について、林さんとじっくり話をしたいなと思っております。

林：よろしくお願ひします。大臣になって一番気をつけていることはどんなことですか。

茂木：本当は健康にも気をつけていきたいのですが、スポーツジムなどに行く時間もなかなかありません。この一ヶ月、公務に忙殺されてきましたが、少し時間が空いたら、身体を動かすことも考えたいと思っております。また家族サービスも全然できず、ちょっと我慢してもらっていますので、また時間が出来たら息子とキャッチボールなども出来ればいいなと思っております。

林：今日は、福田改造内閣の発足に伴い、金融・行政改革の大臣にご就任になられました茂木敏充国務大臣をお招きして、「開倫塾の時間」を送らせていただいております。

茂木先生には、お忙しいとは思いますが、あと3回のシリーズで、いろいろなお話、これからまた金融や行政改革についてもお話をお伺いしたいと思います。どうかよろしくお願ひいたします。

茂木：こちらこそ、よろしくお願ひいたします。また来週もよろしくお願ひいたします。

林：皆さん、ぜひまたお聞き下さい。

第 2 回

林：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」を聞いていただきありがとうございます。今朝の「開倫塾の時間」は、先週に引き続きまして素晴らしいゲストをお招きさせていただいています。ゲストの先生は、国務大臣で金融担当・行政改革担当の大臣をなさっていらっしゃいます茂木敏充先生です。先生、よろしくお願いします。

茂木：おはようございます。よろしくお願いします。

林：先週の「開倫塾の時間」では、茂木先生から国務大臣としての日常生活について少しお話をお伺いしましたが、シリーズでやらせていただいていますので、今回からは少し中身についてもお願いいたします。先生は金融大臣を御担当ということですが、これからの金融はどのように考えたらよろしいのでしょうか。

茂木：金融の分野は大きく分けて2つの課題があると思っております。栃木県でも足利銀行の破綻が4年前にあり、それが地域の経済に相当な影響を与えました。お陰様でこの7月に新しい受け皿も決まり、新生足利銀行がスタートしたわけですが、地元の皆様にしても、特に地場の中小企業、さらに零細企業に対する金融といった問題が非常に重要であります。実は8月の大臣就任早々、金融庁の幹部に「この金融庁のビルにいたるのではなくて、地方に出て生の声を聞いてきてくれ。それも金融機関、地方銀行や信用金庫といった金融機関だけでなく、中小企業や零細企業の方、また商工会議所、商工会といった団体の皆様からも直接意見を聞いてきてくれ。」ということで、一ヶ月かけていろんな意見を集約してきました。

今後、もっと円滑に企業に対する資金供給ができるよう、様々な検討も進めていますが、そういった意味で、一つの課題は、地域の中小企業に対する金融をいかに円滑にしていくかということだと思っております。

林：ありがたいことですね。

茂木：それから世界にも目を向けなくては行けない。先週もお話しましたが、8月末にアメリカを訪問いたしまして、FRBのバーナンキ議長、それから証券取引委員会のコックス委員長はじめいろいろな要人と会ってきましたが、やはりこの東京市場というものをロンドンやニューヨークに匹敵するような世界市場に育てていく、金融センターに育てていく、といった非常に大きな課題があると思っております。

林：ありがとうございます。皆さんの期待が大きいです。

茂木：3回目、4回目に少しお話ししようと思っておりますが、どうも最近、原油高、原材料高、さらに食品価格の値上がりということで、暗いニュースが多く、何となく日本全体が萎縮している感じがあります。しかし、ピンチをチャンスに変えていくという「発想の転換」が必要なのではないかと思っております。

例えば海外に行って感じるのですが、「日本の市場は魅力的ですか？」と聞きますと、「確かに問題もありますが、魅力的なのは、やっぱり個人が金融資産を1500兆円持っていること。」これは世界では圧倒的な額です。日本の国民が持っている金融資産は、世界から見るとうらやましいもので、これをやっぱり活用させていくような政策・対策が必要だと思っております。

林：個人資産というのはどのような方が持っていられるのですか。

茂木：日本の金融資産の場合、特徴が二つありまして、その一つが、林さんが今おっしゃったように「誰が持っているか」ということです。今、比較的高齢の60代以上の方がこの金融資産の6割を持っています。若い方は教育費、医療費、やっぱり色々なことでお金がかかるのでしようけれども、資産の形成が出来ていません。

実は40年前の1970年位の段階で、30代・40代の方が金融資産の半分を持っていたのです。ところが残念ながら、今では30代・40代の方が持っているのは2割、そして1970年の時は60代以上の方は金融資産を2割しか持っていなかったのですが、これが逆転して6割持っている。世代別に見ると、ある意味、年上の方が金融資産を多く持っているという特徴、アンバランスさがあります。

林：その方々にどうやって金融市場に入っていくかということが肝心なわけですね。

茂木：そうですね。それが2つめの特徴とも関連します。2つめの特徴は、その金融資産というものを「どういう形で持っているのか」ということです。

大きく分けると「貯蓄」と「投資」です。預金・貯金で持っている「貯蓄」と、株式投資、投資信託などの「投資」。日本は52%、つまり半分以上が「貯蓄」なんですね。「投資」は9.3%ですから、1割に満たない。ところが、アメリカやドイツを見ても、貯蓄の部分というのは2割くらいなんです。アメリカは投資の方が多いです。

林：日本と逆なのですね。

茂木：ですから、もう少し「貯蓄」から「投資」へ、という流れを作ろうということで、そのための後押しも必要だと思っており、今年末に向け、証券税制の見直し作業を進めております。

小口の投資家の方や、高齢者でこういった金融商品を持っている方が、もう少し税制上のメリットを受けられる形をとっていきたい。特に高齢の方にとっては、今、金利が低いので利子所得はありません。そこで株式などを持って、その配当が言ってみれば第2の年金ということになっていきます。ですから、そういった部分に対するもう少し手厚い措置を検討しています。

林：出来れば少しでも減税の対象にしていいただければ助かります。

茂木：その方向で検討しております。

林：ありがとうございます。その他に金融関係で乗り越えなければならない問題というのはありますか。

茂木：一方では、やはり規制緩和ですね。世界的に見ると日本の規制が厳しいところがある。これにつきましても、昨年末に作成した「市場活性化プラン」に基づいて、一つひとつグローバルスタンダード、世界的に見ても遜色のないような日本の金融制度を作っていきたいと思っています。

林：ありがとうございます。今日の「開倫塾の時間」では、非常にお忙しい中、国務大臣で金融担当・行政改革担当をなさっていらっしゃいます茂木敏充先生をお招きして、お話をお伺いしました。先生、どうもありがとうございました。

茂木：こちらこそありがとうございました。

林：また来週も茂木先生にご登場いただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いたします。

茂木：また来週も伺います。よろしくお願いたします。

第 3 回

林：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聞きいただきましてありがとうございます。前回に引き続きまして、今回も素晴らしいゲストをお招きさせていただいております。そのゲストは、国務大臣で金融担当・行政改革担当をなさっておられます茂木敏充先生です。先生よろしくお願ひします。

茂木：おはようございます。よろしくお願ひいたします。

林：3 回目でなかなか大変だと思うのですが、よろしくお願ひいたします。

今日、茂木先生からお聞きしたいのは、先生がご担当の「行政改革」についてです。行政改革についてはどんな問題点がありますか。また、それはどのように乗り越えなくてはならないのでしょうか。

茂木：国民の皆さんから見て、民間と比べた時、「まだまだ行政には無駄があるな」という思いをお持ちの方が多いいと思います。それから公務員制度についても、天下りの問題や色々な不祥事がある中で国民の皆さんが行政、また公務員に対して不信感を持っているというのは間違いのない事実だと私は思います。公務員の中でも本当に真面目に仕事をしている方は多いのですが、やはり全体的に公僕として、公共サービスを担う立場としてもっともっと襟を正していかなければいけないと思っております。

第 1 回の時もお話をしたのですが、8 月 1 日、官邸に呼ばれ、総理から金融担当・行政改革の担当大臣のご指名を受けた時も、「茂木大臣は改革の担当大臣なんだから、しっかりとやってほしい」と。まさにこれが行政改革の分野だと思っておりますし、これからもこの分野の先頭に立ってしっかり改革を進めていきたいと思っております。

林：何かといろいろな障害があると思うのですが……。

茂木：組織というのは、特に官僚組織というのはどうしても保守的で、現状維持しようという傾向がありますから、それを打破していくことが政治の仕事だと思っております。大きく分けて、今は次の 3 つのことを進めています。

1 つは公務員制度の改革。これについては、先の国会で公務員制度改革の基本法が成立しました。今後 5 年間で全ての改革をやっていこうという、今まさにそのプログラムを進めていくところです。この重要な公務員制度改革の問題が第一にあります。

それから 2 つめに、「独法」とよく言われる独立行政法人の改革も進めていかなければなりません。先日も、無駄が多くてワイドショー等でも取りあげられている「私のしごと館」の視察に行ってきましたが、これの改革も早急に進めていきたい。

それから 3 番目には、やはり無駄な支出をなくしていくということで、公益法人の改革や特別会計の改革も進めております。

林：いろいろな形で国民から、そしていろいろな所から要望が上がってくると思うのですが、そういうものもお読みになったりなさいますか。

茂木：メール等もたくさんいただいております。やはりいただくメールは激励であったり、もっと改革を進めてほしいといったことについてです。

例えば 3 つの仕事の中の公務員制度で言いますと、中央省庁、これも縦割になっていますので、財務省は財務省、

金融庁は金融庁、それから経済産業省は経済産業省、といった縦割の行政の弊害をなくしていくということです。年末までに内閣人事局の草案を作ろうと思っております。これも課長以上の人事については、各省庁がやるのではなくて一元管理をしていく。そういう形で、省益にとらわれず国全体、国民全体を見て公務員が仕事をできる体制を作っていきたいと思っております。

それから公務員に関してはもう一つ、天下りの問題がありますが、これも大きな非難を受けております。実は今年の12月の末までに官民人材交流センターを作り、省庁が押し付けで天下りを斡旋するのを禁止するような制度を作っていきたい。アメリカを見ても、民間で働いている人と公務員が「リボルビング・ドア」と言う、回転ドアみたいな形で行ったり来たりしています。

ですから、やっぱり民間のことも公務員は把握しているし、公務員が民間に出ることによっていろいろな経験も積めるというメリットもあります。そういった「官民人材交流センター」を作る中で、この天下りの規制もしっかりやっていきたいと思っております。

林：ありがたいことですね。

茂木：それから2つめの独立行政法人の改革ですが、すでに全国で101あった独立行政法人が、廃止や統合で縮減され、現在85になっています。そして今、取り組みかけているものが3つあります。その中の一つが「雇用能力開発機構」です。これは厚生労働省の所管なのですが、この改革が残っています。「私のしごと館」も180億円のお金をかけて造られています。そして毎年10何億の赤字を出している。これについてはきちんと廃止をするということで進めていきたい。独法改革もしていかななくてはなりません。

林：雇用能力を開発すること自体は必要な気がしますが、やり方としてその中に無駄があるということですね。

茂木：無駄もありますし、さらに言いますと厚生労働省の天下り先になっているという部分もあるわけですので、これはやっぱり解体をするという方向で今、進めています。

さらに特別会計の方もまだまだ無駄があります。

かつて塩川財務大臣が、「国の予算である一般会計は相当絞っていて、おかゆを食べているような状態である。ところが特別会計は離れのほうで、すき焼きを食べている。」というような象徴的な話をしたのですが、まさにこの特別会計の改革も重大なテーマだと思っており、今進めている所です。

林：どうもありがとうございました。今日の「開倫塾の時間」では、前回・前々回に引き続きまして、非常にお忙しい中、金融・行政改革の担当の大臣をなさっています茂木敏充先生からお話をお伺いしました。先生、今日はどうもありがとうございました。

茂木：こちらこそありがとうございました。

林：またあと1回、ご登場いただきまして、先生からお話を伺いたいと思っております。よろしくお願いいたします。

茂木：来週もお伺いさせていただきます。よろしくお願いいたします。

第 4 回

林明夫：おはようございます。開倫塾の塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聞きいただきましてありがとうございます。今回の「開倫塾の時間」は、前3回に引き続きまして、国務大臣の茂木敏充先生をお招きしてお伺いしたいと思っています。先生、よろしくお願いいたします。

茂木敏充先生：おはようございます。よろしくお願いいたします。

林：茂木先生は金融担当・行政改革担当の国務大臣を今なさっていらっしゃいます。大変なお仕事だと思うのですが、今日は、どうやって日本のピンチをチャンスにしたら良いのかについて、ぜひお話を伺いたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

茂木：第2回目の金融分野の時に、ピンチをチャンスに変える、日本の個人が持っている1500兆円に及ぶ金融資産を活かしていくことが大切だ、というお話をしました。今、色々な意味で景気が悪い、原材料・原油価格の値上がりなど暗いニュースが多いのですが、実は見方を変えると、日本には相当な強みがあるのです。

例えばエネルギーについて。原油は日本では取れません。しかし、省エネの技術や省資源の技術で言いますと、日本は実は世界で1なんですよ。

林：日本の強みは、省エネ技術ですか。

茂木：二度のオイルショックを乗り越えることにより、省エネ、省資源の分野の技術は、日本はかなり進んでいます。

例えば同じ経済活動、同じ生産をするのに必要なエネルギーの投入量で見ますと、実は日本は、アメリカやヨーロッパの先進国の1/2なのです。つまりエネルギー効率が倍なのです。お隣の中国と比べても8倍以上、ロシアと比べると17倍以上、こういう他の国にないエネルギー効率、省エネ技術を持っております。

林：素晴らしいことですね。

茂木：資源でも同じです。同じ経済活動や生産をするのに必要な資源ということで考えますと、省資源の技術は日本が世界1なんですよ。大体、アメリカ・ヨーロッパの国と比べて2倍から3倍の資源効率ですから、これを活かしていくことが今後の日本の成長に必要なのかな、と思っております。

林：省資源というのは、資源を省くという意味ですか。

茂木：そうですね。

日本の場合、例えば戦後の経済成長を見てみると「リーディング・インダストリー」つまり国全体を引っばっていくような強い産業が出てきて、それが輸出をして外貨を稼ぐということで発展してきました。戦後すぐはそれが「繊維」だったわけです。足利でも繊維というのは非常に盛んでした。これが1960年代くらいになると、国際的な競争が難しくなってきた、繊維に代わって「造船」と「鉄鋼」が出てきました。そして1980年代になりますと、「電気」そして「自動車」が出てきました。自動車は今でも国際的に競争力を持っていますが、電気通信の分野で言うと、例えばマイクロソフトやグーグルのように、欧米の特化した、得意分野を持ったIT企業に負けているという感じです。それでは次はどうしようかと考えた時に、この日本の持っている省資源・省エネルギーの技術を色々な産業で活かしてい

くことが必要だと思っています。

実はアメリカも 1980 年代までは、非常に景気が悪かったのです。私がハーバードに留学した 80 年代の前半、この頃は、例えばハーバードのエズラ・F・フォーゲル教授が“Japan as 1”という本を書いた時代です。その時代は、日本の産業政策はすごいな、日本的な経営はいいな、という意味で言われていました。

林：“Japan as 1”とはどのような意味なのですか。

茂木：「世界一としての日本」“as 1”です。それで 80 年代の末くらいから IT 革命が起こり、それによってアメリカは再生します。IT 革命とはマイクロソフトが強くなるとか、グーグルみたいな会社が出てくるといったことで、情報通信分野を強くしたように考えられがちです。もちろんそれもありますが、より重要なのはやはり IT を利用して流通業も強くなり、それから私の担当している金融分野も体力を回復したいということです。

さらに言いますと、アメリカの組織も変わりました。つまり、それまでピラミッド型で中間管理職がしっかりしている日本的な経営は、上下のコミュニケーションがうまくいって良かったのですが、上下のコミュニケーションがなかなか出来なかったアメリカが、IT の技術によってトップマネジメント・経営層と現場を直接 IT でつないで、情報の伝達が非常にうまくいくようになったのです。こうすることで、アメリカは IT 革命をきっかけにして産業の再生を図ったわけです。

日本が今、ピンチをチャンスに変えるためには、まさに原材料高が進んでいるというピンチの中で省エネルギーそれから省資源という技術を、IT 等の産業に限らず、全ての産業で活かしていく。例えば省資源型の IC チップから始まり、電池、さらには電気自動車、ソーラーシステム、太陽光発電、そういういったものまで含めて、いろんな分野に応用することによって、日本の再生というのは可能なのではないかと考えています。

林：ありがたいですね。暗い話が多いですが、茂木先生のお話を聞いていると、日本もまだまだという気もしてきますが、どうでしょうか。

茂木：かつて、イギリスの名宰相と言われたウィンストン・チャーチル首相は、「悲観論者・ペシミストは、あらゆる機会に対してここは難しい、こういう難しさがある、そういう所ばかり見たがる。それに対して楽観主義者・オプティミストは、あらゆる困難に対して、その中に機会を見つける」。こういう言葉を残していますが、まさに政治にはピンチをチャンスに変えていく、新しい機会を見出していく、このことが必要なのではないかと思います。

林：困難の中にチャンスを見出す。

茂木：はい。

林：ありがとうございます。素晴らしい言葉を、茂木敏充、国務大臣で金融・行政改革担当大臣からいただきました。前回、前々回、そしてその前から引き続き、「開倫塾の時間」に茂木敏充大臣をお招きすることができました。

先生、本当にありがとうございました。これからも御活躍いただいて、日本と世界の新しいリーダーになっていただければと思います。御活躍をお祈りいたします。

茂木：皆さんの大きな期待に応えられるようしっかり頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。